

## 伊東達夫教授・上野哲郎教授の 御退任記念号の刊行によせて

経済経営学部長 清水 雅 貴

本『和光経済』第53巻第3号は、2021年3月末日をもって、ご退任される伊東達夫教授・上野哲郎教授が、長年にわたり携われた教育研究へのご貢献とご尽力に対し、経済経営学部として称えるべく両教授のお名前を冠して刊行の運びとなりました。

伊東達夫教授は、1973年3月に和光大学経済学部経済学科を卒業後、明治大学大学院政治経済学研究科修士課程、同博士課程へ進まれ、1981年4月に和光大学経済学部経済学科に専任講師として着任されました。そして、1984年には助教授、1994年には教授（2004年4月からは経済経営学部教授）に任じられました。この間、入試実施委員や学生生活主任など数々の学内委員をおつとめになりながら、1998年から教務部長に、2004年から企画室代表に、2007年からは経済学科長として重責を果たされました。そして、2009年4月からは和光大学臨時学長代行に、2009年12月からは和光大学長として2017年まで2期8年間にわたり大学を率いられました。経済経営学部における主な担当科目は「経済学史」「現代経済学史」「経済学の歴史からみる現代」「ゼミナール（経済学史）」で、一貫して経済学史分野の教育を担われました。

上野哲郎教授は、1976年3月に東京理科大学工学部経営工学科を卒業後、横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程、慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程へ進まれ、1987年4月に関東学園大学経済学部専任講師を経て、1991年4月に和光大学経済学部経営学科に専任講師として着任されました。そして、1993年には助教授、1998年には教授（2004年4月からは経済経営学部教授）に任じられました。この間、学生生活主任や教務委員など数々の学内委員をおつとめになりながら、2000年からは経営学科長に、2002年からは教務部長として重責を果たされました。そして、2005年10月からは経済経営学部長に、2010年4月からは大学院社会文化総合研究科委員長として学部と大学院の教育を牽引されました。経済経営学部における主な担当科目は「情報の基礎（情報社会論）」「テクノロジーマネジメント」「組織コミュニケーション」「ゼミナール（テクノロジーマネジメント）」で、一貫して情報マネジメント分野の教育を担われました。

2021年2月13日に学内で開催された最終講義で、伊東先生には「『アダム・スミス』という概念について考える」の題目でお話いただき、和光の学生として、教員としての思い出を交えながら、「市民社会とは何かという問題意識の在り処」について、我々に大きな宿題を投げかけつつ、ご自身が今後も追究し続ける研究課題について示されました。

上野先生には「私の経営学における関心の変遷について—サイエンスとアートの往復過程で考えたこと—」の題目でお話いただき、これまでの先生ご自身の研究関心を紐解きながら、情報化社会において個々の「知」のレベルを高めるためには、情報を持っているだけではなくそれを活用するための教育が重要であることを説かれました。最終講義を拝聴して、両先生の豊かな見識とお人柄を改めて深く認識した次第です。

伊東先生・上野先生がこれまで培ってこられた経済経営学部における教育と研究の蓄積は書きつくせないものがありますが、これからは私どもがそれらを担っていかなければなりません。両先生が残された偉業を享受しながら、私たちは今後も本学部での教育と研究について発展させる努力を続けてまいる所存です。最後となりましたが、伊東達夫教授・上野哲郎教授の本学・本学部に対するご貢献とご尽力に心より感謝いたしますとともに、更なるご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

2021年3月